

# 美しい和歌山

劉 恬

教育学部 交換留学生 中国

和歌山へ行く前に、先輩たちに「和歌山はどんな町ですか。」と聞いた。いろいろな良い評価を得たので、留学の生活に憧れていた。和歌山に来てから、自分の心で和歌山の良いところを感じ取り、もっとこの町が好きになってきた。

先ず、一番心を打たれたものは「おはよう」という簡単な言葉である。今まで生きてきた20年間で思い出した。恐らく「おはよう」という言葉を学んだばかりのころには、「おはよう」といったことがあるだろう。現在、スピードの速い生活では、毎日忙しい人々はこの言葉を言った時の感受を覚えていないかもしれない。「おはよう」という簡単な言葉は、一日の初めに期待を表す自分の感情も含んでいる。中国で長い時間「おはよう」という言葉を聞いていない私は、毎日自転車に乗り、街のあちらこちらで、挨拶の声を耳にする。私たちはただここを通ったに過ぎず、知り合いでもない。しかし、人々は相手の家柄や地位などに関わらず、ただ挨拶する。この挨拶という習慣が私に感動を与えた。知り合いでもない他人同士が、熱心に挨拶する。この簡単な言葉で一日の気持ちが変えられる。言葉はこの世界で一番素晴らしいものであり、全ての美しいものは言葉を通して表現できる。予想どおり、こんなに簡単な言葉でも、人の心の中にまるで暖かい風が吹いている感じがする。まるで太陽のもとで思い切り跳ね回っているみたいだ。ある時、気持ちがよくないまま家を出ても、最後は嬉しい気持ちで帰ってくる。とても不思議な気分だ。もし中国でこのように挨拶しても、たぶん返事を得られないだろう。人と人の間に高く硬い壁があり、この暖かい風を壁の中に吹き入れられない。これは両国の差異だと思っている。自分の国で感受できない温かい思いやりが日本で感受できると認めざるを得ない。とても残念な気分だ。最近、ずっと両親と友達に「おはよう」と言って、良い結果を得た。初め、彼らは適応できず「はい」とだけ返事した。今はだんだん「おはよう」と返事してくれるようになった。夜を過ぎ、朝になって、彼らは新しい一日を迎える気持ちが感受できる。私も彼らのやる気が感受できる。毎日学校へ行くと、この挨拶を期待する。その時、私はとても大声で返事する。このように、挨拶で人と人の距離が近くなることは私は好きだ。和歌山の人々はとても親切で、楽しい気持ちで他人に接しているのは素晴らしいことだと思う。

次は、和歌山の環境である。日本の全ての町は和歌山のように綺麗かどうか分からない。だが、和歌山は私をびっくりさせた。曇りと雨の日はぬきにして、毎日青空である。地面にゴミなどない。それに、枝の上にビニール袋もない。日本人にとって普通だろう。でも、私にとって、不思議だと思っている。道は平坦でなくてもいいが、ゴミがあることは許せない。日本は環境の上でたくさんの努力してきたことは敬服に値する。そして、私は、日本の国民の良い素養にも敬服する。日本に来てから、一番好きな色は緑だ。日本はどこでも緑でいっぱいなので、気分爽快だ。日本の植物は極めて多く、緑の植物が可愛いと思う。私の国も植物がたくさんあるが、日本のように緑は活気がなく、汚い空気で汚染されている。

る。私は中国の雲南省へ行ったことがある。雲南省は中国の汚染が少ない省だと言える。そこでは和歌山と同じように青空があるが、和歌山と同じような綺麗な緑はない。水曜日の授業でこんなに宿題があった。「一番国に持って帰りたいお土産は何ですか。お金とか、可能性とか、考えなくてもいい。」私の答えは青空である。青空は中国で珍しい。中国のたくさんの町では灰色と黄色の空だけある。とても怖く、重苦しい気分になる。大勢の人は汚染された環境で病気になったが、自分の能力ではどうにもできない。町の発展とともに、環境の悪化は必然だ。どうして日本が環境を改善できたか。これから、中国もよく勉強するべきだ。

和歌山で留学生生活を送っている。両親も先生も私が優秀な成績を取ることを期待していない。留学生として、日本の生活に入り込み、生活の細かい点を感じることが必要だ。これからの留学生生活で、和歌山の親切な人々との出会いを大切に、綺麗な環境、発達の科学技術、勉強してゆきたい。一年間の留学生生活はきっといい経験になるだろう。

